

地方公共団体の施策と連携した歩行空間ネットワークデータ等の整備推進に向けた取組

令和元年6月

政策統括官付

昨年度の地方公共団体への普及に向けた取組

- 昨年度の実証事業を通じ、歩行空間ネットワークデータ等の整備は、地方公共団体が実施する**既存のバリアフリー調査等との連携により効率的に実施可能なこと**、整備データが**防災・観光・道路管理等の用途で役立つ可能性があること**などを確認
- 歩行空間ネットワークデータ等の整備を促進するためには、地方公共団体の**既存の取組との連携事例を多く示していくことが重要**

昨年度の取組

○ 実証事業の結果

- ・バリアフリーマップ作成時に実施するバリアフリー調査を工夫することで、歩行空間ネットワークデータ等の効率的な整備が可能であることを確認
- ・整備データが、多用途に利用できる可能性があることを確認



検証結果を踏まえ、「**効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に向けた手引き**」を整備

地方公共団体への普及に向けた課題

○ バリアフリーマップ作成以外の既存施策との連携によるデータ整備の有効性

- 観光マップや防災マップ作成等の**既存の取組との連携方法について検証し、手引き等として示すことが重要**

○ 整備データの具体的な活用方法の例示

- **歩行空間ネットワークデータ等の活用状況を、事例として示すことが重要**

今年度の地方公共団体への普及に向けた取組

- 地方公共団体が実施する観光マップ整備等の**既存施策との連携による歩行空間ネットワークデータ等の整備、利用促進に関する検証**を実施する。
- 検証結果等を「ガイドライン」や「手引き」に反映し、内容の拡充をはかる。

検証
項目

バリアフリーマップ作成以外の
既存施策との連携によるデータ整備

整備データの具体的な活用方法

検証
ポイント

観光マップ、防災マップ作成等の
既存の施策との連携方法を確認

整備データの活用状況等を踏まえ、
データの有効利用、
利用促進の方法等を確認

実施
内容

既存施策と連携した
データ整備に関する実証

過年度の実施団体（川崎市、大東市等）への
フォローアップ調査

「オープンデータを活用した歩行者移動支援の取組に関するガイドライン（2018.7）」や
「効率的な歩行空間ネットワークデータ等の整備に向けた手引き（2019.3）」への反映



令和元年度実証事業の公募・検証内容

バリアフリーナビ
PROJECT

○ 目的

観光マップ、防災マップ整備等の地方公共団体の既存施策との連携によるデータ整備・利活用の検証

○ 実証事業の公募

- ・公募期間：令和元年6月下旬～8月上旬
- ・対象団体：バリアフリー調査の実績がある、または今後バリアフリー調査等の計画を実施している、市区町村又は社会福祉協議会、観光協会等(2団体選定予定)
- ・実施内容：既存施策との連携によるバリアフリー調査の方法を検討の上、現地にてバリアフリー情報を収集し、歩行空間ネットワークデータ等の整備を実施。実施団体における整備データの**多用途利用の可能性についても確認**

[検証項目]

| | |
|---------------------------|---|
| ① 既存施策との連携による データ整備 | ・観光マップ整備等の 既存施策において実施するバリアフリー調査と連携し、効率的にデータ整備を実施するための方策を、実証を通じて検証 |
| ② データの多用途利用 | ・実施団体における 歩行空間ネットワークデータ等の利用方法、利用を促進するための方法等について、関係部署へのヒアリング等を通じて検証 |

* 既存施策との連携および多用途利用の可能性については、実証事業以外に観光マップ等の作成実績のある地方公共団体を5つ程度選定の上、ヒアリング調査を実施する。

歩行空間ネットワークデータ等の多用途への活用

- 歩行空間ネットワークデータは、バリアフリーを考慮したナビゲーションやバリアフリーマップ作成に活用する以外に自治体の様々な業務に活用できる可能性
- 例えば、「道路管理」「観光」「防災」「福祉」「教育」等の分野での活用を検討・検証

| 分 野 | 利 用 例 |
|------|--|
| 道路管理 | 歩行空間上に存在するバリアを定量的に把握することにより、道路修繕のための工事計画策定等に役立てる。 |
| 観 光 | 障害者や高齢者等が安心して観光を楽しめるよう、観光マップに歩道や公共施設等のバリアフリーの情報を掲載する。 |
| 防 災 | 避難所・避難場所と、歩道上にあるバリアの位置関係をもとに、通行し易い避難ルートの事前確認に役立てる。 |
| 福 祉 | 歩道上のバリアと、病院・介護施設、公共施設、商業施設等の位置を示したバリアフリーマップを作成し、障害者や高齢者等の移動支援に役立てる。 |
| 教 育 | バリアフリーマップの整備・更新を目的としたバリア情報の収集活動などを通じて、地域のバリアフリー状況の学習や心のバリアフリー教育等に役立てる。 |

○ 目的

- ・ 過年度の実証事業において歩行空間ネットワークデータ等を整備した地方公共団体を対象に、**データの利活用状況、データの維持・更新及びデータの利用促進に係る取組や課題等について確認するフォローアップを実施**
- ・ また、フォローアップ結果を含む**取組成果について、他の自治体へのPR方策を検討**

○ 主な調査対象

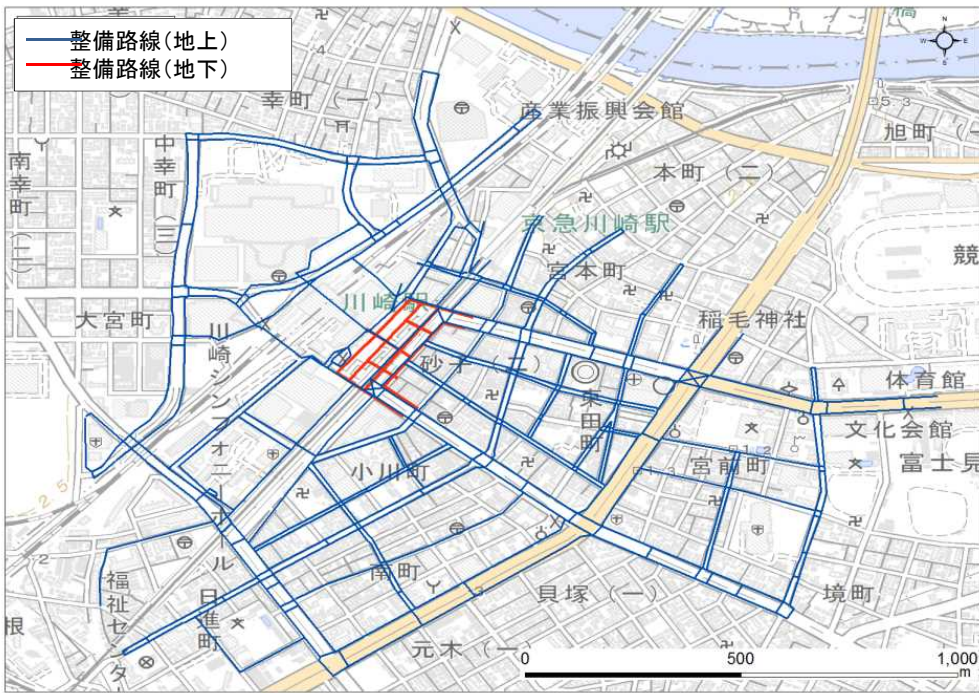
- ・ 平成30年度実証実施団体： 神奈川県川崎市、大阪府大東市
- ・ 平成29年度実証実施団体： 福島県会津若松市、兵庫県姫路市

[フォローアップ調査の主なポイント]

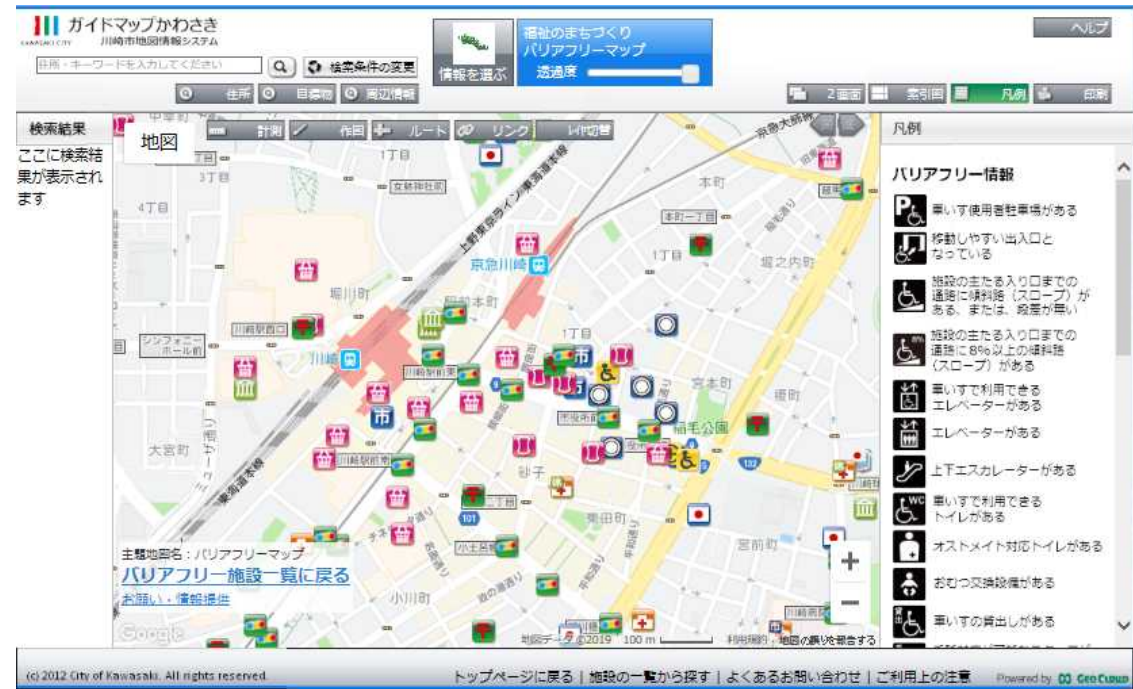
| | |
|----------------|--|
| ① データの利用状況 | <ul style="list-style-type: none">・ バリアフリー情報を提供するマップやWebサイト等の具体的な利用方法・ 防災、観光、道路管理等の他の庁内業務への利用方法 |
| ② データの維持・更新の取組 | <ul style="list-style-type: none">・ データの維持・更新の実施体制と実施手順 |
| ③ データ利用促進の取組 | <ul style="list-style-type: none">・ データのオープン化、研究機関や民間団体、住民等に対するデータ利用を促すための取組 |

<今年度の取組(予定)>

- 昨年度整備の川崎駅周辺の歩行空間ネットワークデータ等を、川崎市のWebGISサイト「ガイドマップかわさき(バリアフリーマップ)」に掲載(現在作業中、夏頃データ追加予定)
- 歩行空間ネットワークデータ等の整備エリアを拡大予定(新百合ヶ丘駅、武蔵小杉駅周辺)



昨年度の歩行空間ネットワークデータ整備範囲
(川崎駅周辺)



川崎市地理情報システム「ガイドマップかわさき」
<http://kawasaki.geocloud.jp/>

<今年度の取組(予定)>

- 昨年度整備した、住道駅周辺の歩行空間ネットワークデータ等を活用し、**住道駅周辺・市役所周辺のバリアフリーマップに歩行空間の情報を追加**
- 大東市のホームページに、歩行空間ネットワークデータを**オープンデータとして掲載**
- バリアフリーマップ整備の進め方として、市内のバリアフリーマップを整備している民間団体及び地元の大学との**産官学連携による実施体制を模索**



昨年度の歩行空間ネットワークデータ整備範囲
(住道駅周辺)

大東市
ホームページ

ホーム > 各課のご案内 > 街づくり部 > 都市政策室 > 住居都市政策課 > まちづくりに関する計画など > バリアフリーマップ

バリアフリーマップ

高齢者や障害のある方が安心して外出できるように、各駅および市役所周辺施設のバリアフリー設備情報を掲載しています。

- バリアフリー設備情報取りまとめ (EXCEL: 15.8KB)
- 住道駅周辺エリア (PDF: 1.6MB)
- 市役所周辺エリア (PDF: 1.9MB)
- 野崎駅周辺エリア (PDF: 453.3KB)
- 四条畷駅周辺エリア (PDF: 1.3MB)
- 図記号 (ピクトグラム) の説明 (PDF: 57.7KB)

駅舎のバリアフリー情報は、J R西日本のホームページからご確認ください。

- 住道駅
- 野崎駅
- 四条畷駅

オープンデータ (住道駅周辺エリア)

- 歩行空間ネットワークデータ (CSV形式) (ZIP: 44.1KB)
- 歩行空間ネットワークデータ (shp形式) (ZIP: 110.7KB)

住道駅周辺、市役所周辺エリアのバリアフリーマップに、歩行空間ネットワークデータの整備により得られた情報を追加

整備した歩行空間ネットワークデータを、オープンデータとして公開